

セッション2

慢性疾患患者とその家族への支援

稲垣美智子

金沢大学大学院医学系研究科

慢性疾患患者は、自律性の再獲得を目的として、療養行動の修得およびセルフマネジメント能力を修得することが期待される。セルフマネジメント自体は個人の取り組みに見えるが、実際は周囲の人との関係抜きには成り立たない。周囲の人、とりわけ家族との関係を良好に保ちながら療養行動を達成していくには患者はどんな課題をもっているのだろうか。

一方、慢性疾患患者をメンバーにもつ家族員は、患者を支援するという役割を担うことが期待される。しかしこの役割を担い成果を果たすためには、家族員は様々な課題の克服に取り組まなければならない。例えば患者との療養生活についての意見の相違によりギクシャクしてしまう関係をいかに克服するか、何をどこまで担えばいいのかなどである。

本セッションでは、糖尿病を例に私の実践や院生と共に取り組んでいる研究成果を紹介し、患者とその家族への支援を下記の視点から展開する。

- 1) 患者と家族員にとっての「家族」
- 2) 「家族員への看護」と「家族看護」
- 3) セルフマネジメントにおける「家族」の役割
- 4) 家族の協力体制形成プロセス
- 5) 日本流(?)家族看護：家族同席面接とその方法
- 6) 家族へのケアを技術化する取り組み